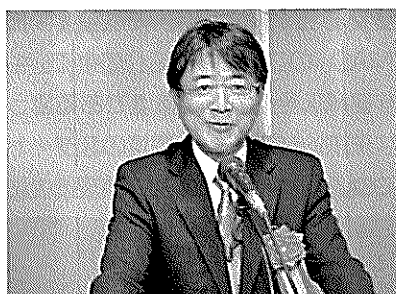


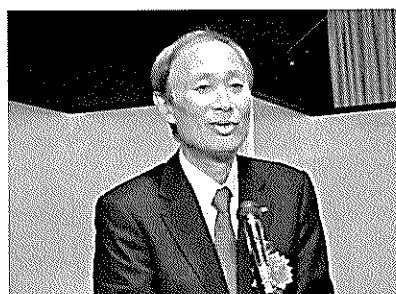
日本物流記者会、講演会と第2回「物流人間大賞」授賞式開催

陸海空の物流専門メディア24社で構成する日本物流記者会(会長・大山高明日本海事新聞社会長)は去る11月21日、都内の東海大学交友会館において総会を開催後、物流関係省庁・企業・団体の代表を招き懇親会を開催した。

今回は新企画として冒頭、ミニ講演会を実施し、講師に迎えた国土交通省の重田雅史物流審議官が登場。同氏は最近、労働力不足、環境保全意識・規制の高まり等を背景に、ビール業界をはじめ各分野で共同物流の取り組みが拡大していることを指摘。災害に対応するリタダンシーの確保、持続可能な生産・物流という観点からも、荷主産業界の意識が「それらを理念だけでなく行動、成長につなぐ」という方向に変わってきていることを強調。これを踏まえ、新年度には総合物流施策大綱の見直しを進めることに触れ、話を結んだ。



重田雅史物流審議官

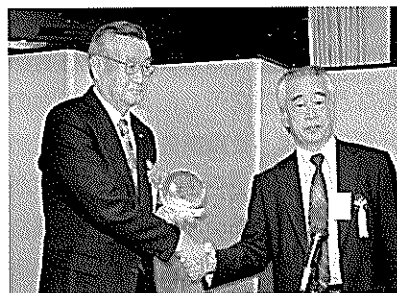


工藤泰三物流連会長

続く懇親会では、まず記者会の大
山会長、日本物流団体連合会の工藤

泰三会長の挨拶に続き、加盟各社が物流分野で高い功績を示した個人を顕彰する第2回「物流人間大賞」の授与式に。今回記者会が選んだのは、全日本トラック協会の星野良三会長(多摩運送会長)だ。大山会長は授賞理由について「長年、トラック運送業界のスポークスマンとして社会におけるトラック運送事業の公共性や重要性について発信してこられた。平成23年6月からは全ト協会長としてドライバー不足など業界を取り巻く事業環境の改善などを広く訴え、社会的地位の向上に努めてきた。通運関係団体のトップとしてもモーダルシフトの重要性を訴えるなど、幅広い活動を行ってきた」ことを挙げ、記念品を贈呈した。

星野会長は受賞挨拶で60年にわたりトラック業界で仕事をしてきた経緯に触れ、「この仕事を嫌だと思ったことは一度もない。毎日変化があり生き生きしている。メディアの皆さんも業界の発展のためこれからも有益な情報を発信してほしい」と述べた。



大山会長から星野会長に記念品を贈呈



星野良三会長

次に前物流審議官を務めた羽尾一郎海事局長が「重田審議官が引き継いでくれた物流審議官を、明治維新



羽尾一郎海事局長

のリーダーのように短命で終わらせることなく、15代続いた徳川家のように皆で盛り立てて行きたい」と乾杯の発声を行い、懇親の場となった。

新刊紹介

UXの時代——
IoTとシェアリング
は産業をどう変
えるのか

- 松島聡(著)、英治出版
- 本体 1,800円+税



本誌にもたびたび登場いただいた、ロジスティクスIT/3PL/コンサルティング企業、シーオス代表取締役の著者が満を辞し、持論をまとめた話題の書。IoTとシェアリングは産業、企業、個人を革命的に変化させるが、その鍵はUX(ユーザーエクスペリエンス)にあるとの指摘が目玉を引く。UXはモノとしての商品を前提としたユーザーニーズと似て非なるもので、文字通り顧客の求める体験を提供すること。

小さく廉価で最先端のコンピュータテクノロジーが手軽に使える今、すべてをつなぐIoTがUXビジネスをドライブする。すでに金融業ではFinTechが普及期に入り、UberやAirbnbの水平型シェアリングビジネスも花盛り。〈共有型経済のビジネスモデル〉が社会を根底から変革する……。次なる世界へ私たちはどう一歩を踏み出すべきか。あなたの背を押してくれる一冊だ。

(K) MITI